様式1

港区立麻布小学校

令和6年度　授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	・言葉に着目して、正確に読んだり、聞いたりする力 ・目的意識をもって、話したり書いたりする力 ・正しい字形や筆順で漢字を書く力	・内容の中心を捉えながら、聞いたり、読んだりすることが不十分である。 ・目的や意図に応じて、資料を活用したり、事実と感想、自分の意見と区別したりして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することが苦手である。 ・収集した知識や情報と関連付けて自分の考えをまとめる力が弱い。 ・学年相当の片仮名、漢字を読む、書く、正しい筆順や字形、「とめ・はね・はらい」などを意識して書くことが苦手である。	・教科書の範読や、本の読み聞かせなどを聞いたり、読書する経験を増やす。 ・基本の文型や話型を示し、「始め・中・終わり」を意識した文を書かせるようにする。 ・説明文や物語文を要約したり、日常的に作文や日記を書いたりするなど、書く活動に力点をおいて取り組ませる。 ・相手意識をもたせて字形を整えて書くことを、新出漢字の指導や書字活動の際に意識させるよう指導する。 ・定期的に漢字テストを行ったり、文章を書く際に既習の漢字を用いることを指導したりして、定着を図る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	・資料から地図、統計などの資料を読み取ったことや考えたことをまとめる力 ・社会の学習と日常生活とを結びつけて考える力	・地図の見方や資料の読み取りなどを苦手とする傾向にあり、それらを基に思考する際につまずきが見られる。 ・学習内容を日常生活に結び付けて考えることを苦手である。	・学習内容を一人一人が自分の言葉でまとめて、協働的な学びにつなげる場面を授業内で増やす。 ・普段の生活の中で、学習内容と関連する場面が出てきた際には都度声がけをする。 ・教師が、毎時間ごとの主となる資料を厳選し、読み方を丁寧に教え、資料の読み取り能力を高めていくよう指導する。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	・正しく計算、測定、作図する力 ・問題場面を図や表などに表し、根拠を明確にして立式することができる力。それらを基に、考えたことを表現する力 ・問題を的確に捉え、数学的に考えて答えを導き出	・全国学力・学習状況調査より、領域別では「データの活用」、観点別では「思考・判断・表現」、形式別では「記述式」の平均正答率が低い。	・ぐんぐんタイムや宿題を活用して反復練習を行い、引き算、かけ算、小数などの基本的な計算力の向上を図る。Webドリルも有効に活用する。 ・グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉や図などを用いて説明できるように、思考する時間を設定する。データから割合の読み取りができるように指導する。 ・自力解決の時間にて、個別指導の時間を十分に確保し、自力で解決する手立てを示したり協働

	そうとする力 ・既習事項を基に、自力解決する力		的な学びに結び付けたりして、考えを深めたり、記述式で表現したりすることができるようにする。 ・習熟度別のクラスの実態に合わせて、数直線や図、絵を用いたり、問題文に下線を引いて立式するために必要な情報を掲示したりして、視覚的に自力で考えることができるように、問題提示の仕方を工夫する。

理科	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・既習事項や経験を根拠にしながら学習問題に対する仮説を立てる力 ・どのような実験をすれば仮説を立証することができるかを進んで考える力 ・様々な事象について追及する中で、差異点や共通点を基に、問題を見いだす力	・実験結果から考察し、学習課題に対しての結論を導き出す力に課題が見られる。 ・学習課題に対する仮説を立てる時に具体的な根拠を挙げて、既習内容や生活経験と結び付けて考える力に課題が見られる。	・単元の導入の際に、前学年までの学習内容や生活経験を想起させてから、仮説を考える時間を設ける。 ・どのような実験が必要か手順や必要な道具などを考える。 ・予想で「自分の考えの根拠」を考えたり、結果から「何が言えるのか」を考察したりする時間を設定する。 ・本単元で学習したことがこれからの生活でどのように生かせるか、生活にどう関係しているかを考える時間を設ける。

生活	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・季節に見られる自然のものや行事・変化について意図的・計画的に気付く力。 ・学校、家庭及び地域の生活を通して、他者と自分との関わりに気付き、よりよく生活しようとする力。 ・身の回りと自分自身との関わりについて考え、表現する力。 ・身の回りの事柄に興味・関心を持ち、すすんで関わろうとする力。	・学習したことを実生活に生かそうとする活用力がついていない。 ・他者と自分との関わりに気付いたり、よりよくするための自分の考えをもったりすることが不十分である。	・季節の行事や自然の変化に気付けるよう、それぞれの季節ごとにカードにまとめる活動を取り入れる。 ・実体験の活動を増やす。 ・自分の考えを持ち、表現しやすくするため、タブレット末端を活用する。

音楽	育成を目指す資質･能力	学習評価等に基づく課題	資質･能力を育む指導方法･指導体制の工夫
	・他者や音楽と関わり合いながら互いの表現を高め合う力	・既習事項を活用したり、つながりを意識したりすることや友達と主体的に関わり合いながら、音楽表現を高めたり深めたりいくことに課題が見られる。	・表現（歌唱･器楽）においては、個別指導を行い技能面の差異が広がらないようにしていくとともに、子供同士の教え合う活動や音楽表現を工夫する活動を数多く行う。 ・様々な学習形態で言語活動を多く取り入れる。（ワークシート、ペア学習、グループ学習等） ・ICT の利点を生かし、協働的な学びの活発化を促す。 ・音楽づくりなどで既習事項を活用した表現の工夫などを行う。

図工	育成を目指す資質･能力	学習評価等に基づく課題	資質･能力を育む指導方法･指導体制の工夫
	・造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えたり、作品に対する自分の見方や感じ方を深めたりする力	・造形活動を通してそれぞれのイメージを知ったり、リアルな表現や整った表現以外の様々なよさや美しさに価値を見出したりすることに課題がある。	・製作途中に相互鑑賞の時間を設定し、イメージを共有したり、美術館への校外学習でアートに触れたりする機会をつくり、様々な造形的視点からのよさや美しさの価値を実感させる。

家庭	育成を目指す資質･能力	学習評価等に基づく課題	資質･能力を育む指導方法･指導体制の工夫
	・日常生活の衣食住について必要な基礎的な理解を図り、それに係る技能を身に付ける。 ・自分の生活と関連付けて、生活をよりよくするための方法を考える能力を養う。	・調理や裁縫等の基礎的な技能が身に付いていない。 ・身に付けた技能や知識を生活や家庭で生かす機会が少ない。	・家庭での朝食作りなど、身に付けた力を家庭で生かせるような課題を設定する。 ・裁縫や調理などの実践を通して、基本的な知識や技能を身に付けられるように実習を行う。 ・必要に応じて担任と専科の2人体制で授業を行い、技能を身に付けさせる。

体育	育成を目指す資質･能力	新体力テスト、学習評価等に基づく課題	資質･能力を育む指導方法･指導体制の工夫
	・各種の運動が有する特性や魅力に応じた基本的な知識、技能を身に付ける。 ・自己の能力に適した課題をもち、活動を選び工夫する･表現力等を育む。 ・運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度を育む。	・自分の能力に合う練習方法に取り組み、技能を高める力が不十分である。 ・体全体を使った多様な動きの運動やボールを投げる運動に課題が見られる。	・自己を振り返り、次の学習に繋げるために、学習カードを活用する。 ・身に付けたい技能や能力に応じた練習をすることや自分の体の動きを学習用情報端末で撮影し振り返りをする時間を設ける。 ・一人一人の運動時間を十分に確保する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	・聞く、話す（やり取り、発表）資質・能力 ・英語を使う実践力と、国際コミュニケーションの基礎的な力 ・外国の文化と日本の文化を比較し、それぞれの特徴を理解した上で尊重する態度	・学習した話型や英文を十分に活用できていない。 ・英語に自信がなく、活動に消極的になってしまう児童がいる。 ・日本の文化については理解しているが、海外の文化についてはあまり知らない。	・体験的な活動やゲームなどのアクティビティを取り入れ、すすんで学習に取り組むようにする。 ・簡単な語句を聞き取れるように、身の回りの物を題材として取り扱う。 ・活動内容の中で自然に英単語や簡単な文型の発話回数を増やしたり、友達と交流したりする時間を設定して、自信をもたせる。意味が分かるように、表情や身振り、イラストや写真などを手がかりになるように指導する。また、Webコンテンツも活用する。 ・授業の中で、外国の文化を知る機会を増やしていく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	・道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深め、道徳的な判断力、実践意欲等の資質・能力を育成する。	・ねらいに迫っていることが分かるような発言や自己の振り返りができていない。 ・多面的、多角的な見方ができる児童が少ない。	・道徳的価値についての理解を深めるために、教材理解の時間を設け、ねらいが達成できるよう学習課題（導入や教材提示の工夫、発問の精選）について考えさせる。 ・多面的・多角的に考えられるように話合い活動を取り入れていく。 ・自己を見つめる時間を設けることで、自己の生き方について考えを深められるようにする。自分の考えが思い浮かばない児童については、生活場面を思い出させるような声かけをする。

	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	・すすんでクラスのために、学級での話し合いや係活動、当番活動に参加する態度 ・様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や社会における生活及び人間関係をよりよくしようとする態度	・他者との合意形成の場面において課題のある児童がいる。 ・クラスのために主体的に活動をするという意識が低く、自分の楽しさを係活動においても優先してしまう児童が多い。 ・課題について話し合えるが、それを実践する力が乏しい。	・学級会を定期的に行い、根拠に基づいて意見を述べるように指導する。その際、児童の発言を肯定的に認めるようにする。また、学級会の記録を児童が見られるようにする。 ・クラスの実態や状況に応じた話合いを行い、「クラスをよりよくしていくためにできること」を考える時間を設定する。係や当番活動では、活動に意義について確認し、自分たちの活動がどのようにクラスのためになっているかを確認する時間を設ける。また活動の振り返りを行う時間を意図的に設けることで継続的に活動に取り組めるようにしていく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	・自ら課題を見つけ、情報収集をし、集めた情報を整理したり分析したりして、まとめられる資質・能力	・学習課題を自分事としてとらえる意識が薄く、すすんで課題解決に取り組むことが難しい。 ・学習課題について、どんな方法で調べたらよいかが分からず、見通しをもって活動することが難しい。 ・インターネット上の情報を丸ごと引用してしまうなど、情報モラルが十分に身についていない。 ・情報を正確に読み取る力が乏しい。	・課題設定の前に、情報を十分に与えて自分事として考えさせて、課題の「問い」を吟味し、課題解決への意欲に結びつける。 ・互いに教え合ったり、情報共有をしたり、異学年間で発表し合ったりするなど、協働的な学びの場を設ける。 ・総合的な学習の時間や道徳などで、情報モラル教育を行い、インターネット上の情報の扱い方を学ばせる。